

食品に関するリスクコミュニケーション（東京）

食品の安全性確保のためのリスク評価への消費者関与 - ヨーロッパにおける取組から学ぶ -

開催日：2006年8月30日（水）
開催場所：星陵会館
参加者：122名 回答者：95名
回答率：77.8%

問1 あなたご自身のことや食品の安全性に関するお考えについてお聞きします。

性別

回答内容	件数	割合
1 男性	62	65.3%
2 女性	33	34.7%
無回答	0	0.0%
	95	100.0%

年齢

回答内容	件数	割合
1 20歳未満	0	0.0%
2 20歳代	9	9.5%
3 30歳代	22	23.2%
4 40歳代	26	27.4%
5 50歳代	22	23.2%
6 60歳代	13	13.7%
7 70歳以上	3	3.2%
無回答	0	0.0%
	95	100.0%

職業

回答内容	件数	割合
1 消費者団体	6	6.3%
2 主婦、学生、無職	7	7.4%
3 生産者	2	2.1%
4 食品関連業者	51	53.7%
5 マスコミ	1	1.1%
6 行政	10	10.5%
7 食品関連研究・教育機関	10	10.5%
8 その他	8	8.4%
無回答	0	0.0%
	95	100.0%

その他FA

・財団法人・コンサルタント・ISO22000審査員・農薬メーカー・ライター・食品安全モニター・農薬製造会社
・食の安全と安心のコンサルタント

本日の意見交換会開催をどこでお知りになったか

回答内容	件数	割合
1 食品安全委員会のホームページ	36	37.9%
2 食品安全委員会からのご案内資料	13	13.7%
3 食品安全委員会メールマガジン	25	26.3%
4 関係団体からのご案内資料	6	6.3%
5 知人からの紹介	4	4.2%
6 その他	8	8.4%
無回答	3	3.2%
	95	100.0%

その他FA

- ・新聞の告知欄・Google News 検索：食品の安全性・厚生労働省メールマガジン
- ・農水省のメールマガジン(2件) ・都のHP・Scienceportal.jp(2件) ・行政

本日の意見交換会に参加された動機

回答内容	件数	割合
1 EUにおけるリスクコミュニケーションの取組に関する情報を収集したかったから	51	53.7%
2 リスク評価と消費者の関わりについて知りたかったから	36	37.9%
3 専門家と直接意見交換をしたかったから	0	0.0%
4 業務の一環として参加する必要があるから	4	4.2%
5 国が行うリスクコミュニケーションの取組について知りたかったから	4	4.2%
6 その他	0	0.0%
無回答	0	0.0%
	95	100.0%

「100%安全な食品はないこと」について、あなたはどのように思われますか。

回答内容	件数	割合
1 強くそう思う	71	74.7%
2 ややそう思う	15	15.8%
3 あまりそう思わない	4	4.2%
4 全くそう思わない	2	2.1%
5 わからない	1	1.1%
無回答	2	2.1%
	95	100.0%

欄外コメント

- ・条件によりますが、一般的には。(回答：1)
- ・この質問はよくない。(無回答)
- ・食べる側の問題が多々あるので。適切な食べ方であればほぼ安全という意味です。(回答：3)

問2 本日の意見交換会についてお聞きします。

意見交換会開催時期

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	12	12.6%
2 適切だった	73	76.8%
3 あまり適切ではない	3	3.2%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	7	7.4%
	95	100.0%

開催方法（参加手続き・場所・所要時間）

回答内容	件数	割合
1 とても適切だった	12	12.6%
2 適切だった	78	82.1%
3 あまり適切ではない	1	1.1%
4 全く適切ではない	0	0.0%
無回答	4	4.2%
	95	100.0%

配布資料

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	12	12.6%
2 わかりやすかった	64	67.4%
3 わかりにくかった	14	14.7%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	5	5.3%
	95	100.0%

欄外コメント

- ・字が小さい（回答：3）
- ・枚数が多すぎて・・・（回答：3）

専門家による講演

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	10	10.5%
2 わかりやすかった	59	62.1%
3 わかりにくかった	20	21.1%
4 全くわからなかった	1	1.1%
無回答	5	5.3%
	95	100.0%

欄外コメント

- ・早口について行けない！（回答：2）

パネルディスカッション

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	5	5.3%
2 わかりやすかった	72	75.8%
3 わかりにくかった	10	10.5%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	8	8.4%
	95	100.0%

意見交換時の応答

回答内容	件数	割合
1 とてもわかりやすかった	5	5.3%
2 わかりやすかった	65	68.4%
3 わかりにくかった	14	14.7%
4 全くわからなかった	0	0.0%
無回答	11	11.6%
	95	100.0%

意見交換会全体

回答内容	件数	割合
1 評価する	16	16.8%
2 おおむね評価する	62	65.3%
3 あまり評価しない	7	7.4%
4 全く評価しない	0	0.0%
無回答	10	10.5%
	95	100.0%

問3 以下の食品安全委員会の取組みのうち、ご存知のものあるいは利用したことのあるものを全て選んで、をつけてください。

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 委員会、専門調査会の傍聴が可能なこと	68	71.6%
2 食品安全委員会ホームページ (http://www.fsc.go.jp)	86	90.5%
3 食の安全ダイヤル(食品の安全性についての情報提供やお問い合わせ、ご意見を受付ける窓口)	47	49.5%
4 食品安全委員会メールマガジン (e-マガジン)	60	63.2%
5 食品安全モニター制度	48	50.5%
6 季刊誌『食品安全』	51	53.7%
7 食品の安全性に関する用語集	58	61.1%
8 食品の安全性に関する政府広報	35	36.8%
9 その他	1	1.1%
無回答	5	5.3%
	459	-

その他FA

・意見交換会

問4 食品の安全性を確保していく観点から、意見交換会などのリスクコミュニケーションで取り上げるテーマはどのようなものを希望しますか。（3つまで）

回答内容	件数	回答者数に対する割合
1 食品添加物	11	11.6%
2 残留農薬	29	30.5%
3 食品中に存在する汚染物質・化学物質	32	33.7%
4 遺伝子組換え食品	23	24.2%
5 動物用抗菌性物質（いわゆる抗生物質）	14	14.7%
6 BSE	10	10.5%
7 食中毒 （微生物・ウイルス・かび毒・自然毒）	16	16.8%
8 鳥インフルエンザ	8	8.4%
9 新開発食品	16	16.8%
10 いわゆる健康食品	39	41.1%
11 リスクコミュニケーション	23	24.2%
12 食育	18	18.9%
13 その他	7	7.4%
無回答	5	5.3%
	251	-

その他FA

- ・ポストハーベスト（農薬とされていない物）
- ・会を通じて得られた情報は興味深く、有用であったが、食品安全委員会が意図する効果が得られるかは疑問。
- ・照射食品・食品安全委員会で検討した項目の個別の評価結果。例えば前回の大豆イソフラボンなど。
- ・食べる人間の強さを伝えていって？ 細かい安全性ばかりでキリがないように感じます。
- ・リスクを起きないようにする企業のマネジメント
- ・ト殺場の管理対策・放射線殺菌

欄外コメント

- ・米国牛再輸入について。（回答：6）
- ・コメント内容：過小視されているが、サルモネラなどまだ改善の余地がある対策が多い。（回答：7）

問5. ご意見・ご感想

個人を特定できるものについては としています。

1	大変勉強になりました。ありがとうございました。
2	講師の用意された内容に対して講演時間が少なかった。
3	欧州での対応や考えなどがきけて、大変興味深かった。
4	関係者対象広すぎる為、結局表面的な事しか議論できないので有効な方法でないと思う。
5	フードチェーン全体をカバーするリスクコミュニケーションの深さを実感できました（ありがとう） G.C.P for Food Risk の検討を期待しています。
6	質問者の質問と回答者の回答が少しずれていたように思います。消費者がリスクコミュニケーションにどうやって関わっていくべきかが、あまり議論されなかったので残念に思いました。
7	今回で様々な話をもとにリスクコミュニケーションが前進して成長していくことを期待します。 これからもリスコミに参加協力していきたいと思っています。
8	ステークホルダーとして、国民全体にとってリスクコミュニケーションが進化・定着することはとても大切だと思う。ガッサンさんからのキーワードとして「善意、協力、相互に学び成長すること」が印象に残った。それぞれの立場（消費者・事業者・行政）で実践していきたいと強く感じた。たいへん良い学びができたことに感謝する。
9	・日本でも途中経過の開示、何故そうなったのか？などの説明が欲しい。 ・色々な情報へのアクセスをもう少し簡単にできるようにして欲しい。 Homeからは入っていけない場合もある。 ・もう少し「リスク」- case by caseになると思うが - を具体的に示して欲しい。
10	・プロセスの透明性が重要である ・相手によりニーズが異なる という事が認識できたと思います。
11	パネルディスカッションでパネリスト同士の意見交換、意見集約が少なかった。パネリストの発言時間をもう少し短くし、テーマをしぼって、例えばこのやり方に対して賛成か反対か、から対話を開始するようなことがあったらいいと思います。
12	EFSAの現状（問題点）、課題を具体的にあげて説明して欲しかった。
13	外国の方を呼ぶのはけっこうなのですが、前回もそうでしたが、しゃべるのが早いです。同時通訳もよいのですが、時間をとってゆっくりしてほしいです。
14	・食べ物豊富にある前提をもう少し考えさせる議論があればよいのでは？ ・エネルギー自給率40%！！
15	EFSAは既に完成されたものであると考えていたので、意外だった。日頃、日本の食品安全委員会に対して、足りない部分ばかりめだつが仕方ないことと感じた。EFSAは大きいので、リスク評価への消費者関与まではいっていないと感じた。
16	EUEFSAの制度や経緯についてはよくわかったが、題である「消費者関与」の部分について、ほとんど話されなかったのが残念でした。また、消費者関与の方法として、具体的にはどのような方法があるのか、EUのことに知りたかったです。
17	「100%安全な食品はない」ということについて、もっと議論し、コミュニケーションすべきではないかと思う。
18	「リスク評価への消費者関与」というテーマからは、不十分だったのでは？ テーマ設定をしようとした主催者の意図は評価しますが----
19	・食品中の化学物質が、単一のみならず複数での作用又は悪影響など。（ex. 安息香酸+V.C ベンゼン） ・今回のような海外の事例等の内容を希望します。 ありがとうございます。
20	パネリストの選定がよくない。氏は、消費者代表でなく、流通業者（日本生協連は流通業者だ）の代表だ。また氏は、企業の代表だ。このような人の意見はききたくない。
21	消費者も専門家、企業も、「リスクコミュニケーション」はまだまだこれからだ..と改めて実感した。今後、こういった講演やディスカッションがあるなら、具体的にどのように各立場の方々が動いているか、資料つきで説明を聞いてみたいと思う。
22	交換会で質問 回答でしたが、通訳を通すので適切な回答だったか？のものがありません。講演の後休けい時に質問をかくスペースをこのアンケートに入れて、質問したか否か、その回答は適切だったか？と書くところがあると、交換会での質疑に役立つのではないのでしょうか？
23	メモをとりやすくするため、机のある会場を希望する。 海外の事例を学ぶことは重要であり、今後も海外有識者の招へいを期待する。
24	相対的に評価するためには油脂や砂糖の影響（肥満 動脈硬化）をあきらかにして、それに較べてDAGやアスパラチームがどうかと云う事を提示する必要がある。 旧来型の食品の健康影響の無びゅう性をリスク評価の根拠にしてよいのだろうか。 飼料・肥料と云う事では、リサイクル推進のために「有機なら良からう」と畑へたい肥やゴミが撒きちらかされ、しょうちゅうカスなどの飼料化もなされているが、本当にそれらが安全なのか？を化学肥料などと比較する必要もある。 W-3を富化するために豚や牛にエゴマや魚粉を与えて、さて、肉や乳は、酸化変性し易くないのだろうか？

25	複数の同時通訳者が御担当されていましたが、最も早口はやや声の高い方が最もわかりやすかったと思います。特に日本側の発言を英語に訳された時に、ゆっくり話す方は、略されている部分が目立ち、正確に、に伝わったのか、いささか心配でした。
26	の講演は、全体としてよく理解できたが、少々早すぎ、急ぎすぎの感あり、落ちついて聞くには。今一度よく深く聞いてみたいものである。全体像を簡単に現状だけでも...
27	このような企画も結構であるが、もっと重要なのは消費者である一般大衆に食の安全を指導啓蒙することが大切である。メディアを利用し広報することにもっと真剣に注力して欲しい。限られた人々へ何度やっても大きな効果はなく予算のムダづかいとなる！！
28	1. 食の安全は重要だが、食べる側の問題（リスクある食品に対する <u>適正な対処：科学的判断、過度の反応に対する冷静な対処法など。</u> etc）について、国民全体の意識の向上=食育の問題が今後重要と思います。2. リスクコミュニケーションの意義については、おおむね討論されたと思うが、リスクコミュニケーションの具体的なテーマに対する結果の評価をもう少し具体例で話しをして欲しかった。
29	一般参加の立場です。専門用語が多くて閉口です。の話は、理解しましたが、会場からの質問者がむずかしいことばを使われるのでついていけないくらいでした。（通訳の人がうまく理解していない状況もありましたね。）リスコミに参加される専門家の方々であるはずなのに、一緒に会場で聞いている消費者（あまり専門知識）のことなど、全く考慮されていないご様子なのが、とても残念でなりませんでした。
30	法規制されていないもので危険性が考えられるもの、安全性が確認されていないものは不許可にすべき。現段階では法規制されていないものは許可されているが如く取扱われている。意見交換を重視されたい。
31	説明（通訳）が早口で、あまり理解できなかった。
32	本日のテーマ「・・・消費者関与」となっている。消費者が関与したリスコミ、取組みの内容がみえなかった。討論でも取り扱われたように見えない。
33	通訳はたいへんすばらしいと思います。しかし、声話し方がくらくてうとうしい。聞いていてゆううつになってきます。もう少し明るく話してほしい。
34	1. 食育の各県の取組は、食の意義、価値の正しい認識にあり、安全と安心については殆ど取り組まれていない。安全安心を重視すべき。2. 食育の大人版も考えるべき。3. 生産、流通者の自主簡易検査の普及、消費者の自主簡易検査をもっと進めた方が良い。4. トレーサビリティも一種のリスクコミュニケーションと思うがトレーサビリティの信頼性に欠ける点が多いと思う。この改善が行われると良い。もっと科学的、実証的であるべきである。
35	残留農薬や動物用医薬品についてポジティブリスト制により法律的には制度ができてきたと感じます。しかし、各ト場の管理や畜産業界生産者の理解はかなり遅れているように感じます。より、しっかりと農水の対策や管理、地方への呼びかけ、情報の提供をせつにおねがいたします。
36	主題以外の挨拶、説明等は全体で5分間とされたい。
37	アスパルテムの評価結果についてのEFSAの報道の仕方には日本も学ぶべき点があると感じました。ただ、日本では情報の受手側にも未だに問題点が残っているので、すぐにEFSAのようなスタイルでの報道はむずかしいとは思いますが少しでも取り入れることができれば・・・と思います。
38	残留農薬の件で生産現場での使用基準や指導を徹底しないと農薬は減少しない。加工業者は農薬についてポジティブリストに従って良くなっているが、現実の生産現場でどうか？ 生産農家にどれだけ農薬を勉強しているか？ 無知による農薬使用。一部の農家による農薬使用で、食品の安全が失われている。これが現実である。日本の農家はやく対応しないとたいへんであると予想されます。
39	・非常に重要な内容が書かれているので、もう少し講演時間をとり、ていねいに説明してほしい。リスコミを各ステークホルダー毎に行うことは参考になった。日本では消費者団体がほとんど発言し、他の異なる意見を認めず、合意形成しようとしており、不適切な開催方法と感じていた。特にBSE意見交換会の時は、総会屋の人間があり、科学的な評価に対して、業界としてコメントすると、つるし上げられそうで、発言をひかえる人が多かった。是非別々にリスコミを行って欲しい。また、意見が反映されていないという意見があるが、科学的評価は意見によって変ることがあってはいけないことも記します。それはリスク管理部内のやることである。